

(様式3)

## 平成19年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立七尾養護学校珠洲分校

【中・長期目標】保護者及び地域の連携をもとに、将来を見据えた指導の充実を図る

No.1

重点目標	具体的取り組み	実現状況の達成度判断基準	評価(集計)結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
① 地域との結びつきをめざした部活動の実施	① 地域の老人会で取り入れているグラウンドゴルフやペタンクを部活動の種目に入れて交流を図る。	地域の老人会との交流を A:年3回以上実施 B:年2回実施 C:年1回実施 D:年0回実施 することができた。	評価 D	【分析】部活動は実施していたが、グラウンドゴルフやペタンクなどの道具をそろえることができなかった。そのため、老人会との交流は運動会のみとなってしまった。 【改善策】部活動の時間や道具の準備状況から、老人会との交流は困難である。部活動以外で、「紙芝居公演」で地域の老人施設や小学校等との交流を続けているので、この活動で地域との結びつきをめざしていきたい。
		参加された老人会の会員は、この交流に A:大変満足した B:まあまあ満足した C:あまり満足しなかった D:全く期待はずれであったと回答する	実施できなかったため、アンケート回答なし	
② 地域の資源を活用した計画的な教育活動の展開	① 地域のひと・もの・こととの関わりを取り入れた学習活動において効果的な指導計画や指導形態、支援方法を全職員で探求していく。  ② 個別の教育支援計画及び個別移行支援計画に書かれたニーズについて支援機関との具体的連携を図りながら個別の指導計画に反映する。	学習活動のさらなる充実を図るための授業研究に取り組むことができた教員は A:全員 B:8割以上全員未満 C:6割以上8割未満 D:6割未満	評価 A	【成果】研究テーマにそった授業研究を全教員が実施することができた。 【課題】複数で授業を行う機会が多いため、協力指導がよりよい形で機能するためには打合せの時間を十分持ち授業にあたっての共通理解を図る必要がある。 【改善策】単元計画表で打合せを行うようにする。  【成果】珠洲総合病院リハビリ科と肢体不自由児に対する支援計画、日本海倶楽部とそこを利用する生徒との支援計画など具体的な支援会議を持つことができた。 年度当初に個別に年間指導計画や支援計画について保護者と話し合う機会を持つことができています。 【課題】他の機関との関わりが薄い児童生徒の支援会議をどうするかが課題である。 1年間に具体的に何がどこまでできるようにしていくかを明確にした目標と計画が示せるようになることが課題である。 【改善策】地域の行政機関が主催する自立支援協議会を活用する。
		反映させることができたのは A:全員 B:8割以上全員未満 C:6割以上8割未満 D:6割未満  保護者のアンケート結果は A:全員 B:8割以上全員未満 C:6割以上8割未満 D:6割未満 が満足している	評価 C 反映させることができたのは20名中15名  評価 B A:6人 B:13人	

【中・長期目標】特別支援教育の地域におけるセンター的役割を果たすため、地域の学校との関係作りを推し進める

重点目標	具体的取り組み	実現状況の達成度判断基準	評価(集計)結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
③ 特別支援学校としての教育相談事業の充実	① 医療や福祉、保育所と連携を図り幼児教育相談室での相談・支援体制を確立する。	幼児教育相談室の相談内容に A: 全員が満足 B: 8割以上全員未満が満足 C: 6割以上8割未満が満足 D: 6割未満が満足	アンケート回収率36% A: 大変満足 3 B: まあまあ満足 1	【成果】来校相談件数は12件54回(1・2学期)あった。 【課題】相談回数の増加とそれへの対応が課題である。 【改善策】来校相談の頻度を必要に応じて調整する。
	② 障害に応じた教育相談体制を確立し、希望する小学校中学校等との連携を図る。	専門相談あるいは地域支援相談室での相談内容に A: 全員が満足 B: 8割以上全員未満が満足 C: 6割以上8割未満が満足 D: 6割未満が満足	アンケート回収率55% A: 大変満足 8 B: まあまあ満足 4	【成果】専門相談の1・2学期の延べ回数は50回である。 【課題】巡回相談は23回(1・2学期)あり、外へ出る機会は増えつつある。それへの対応が課題である。 【改善策】巡回相談員の補欠体制を整備する。
	③ 学校エリアをカバーする地域支援ネットワークを構築するための基本構想を関係機関と話し合う。	関係機関との会議が A: 3回実施できた B: 2回実施できた C: 1回実施できた D: 実施できなかった	評価 B ① 保育士情報交換会 ② 卒業後の生活と進路を考える会	【成果】地域支援ネットワークとして、1つは幼児教育相談、もう1つは卒業後の進路情報についての関係機関との会議を持つことができた。 【課題】どの機関も積極的な関わりがもてるようなネットワーク作りが課題である。 【改善策】関係機関との会議を積極的に開催する。
④ 個々の生徒の適性にあった職場実習と職場開拓の実施	① 保護者と相談の上、生徒の適性にあった職場実習を実施し、適性に応じた職種に就く。ハローワークなどの関連機関の指導を受けて取り組む。	生徒は職場実習に A: 全員が満足 B: 7割以上全員未満が満足 C: 5割以上7割未満が満足 D: 5割未満が満足	評価 A	【成果】高等部2年2名、3年4名はそれぞれ希望する職場において実習することができた。また一般就労、福祉就労、職業能力開発校への進学とそれぞれ希望する進路先に行くことができた。
		保護者は生徒の就労先に A: 全員が満足 B: 7割以上全員未満が満足 C: 5割以上7割未満が満足 D: 5割未満が満足	評価 A	【課題】適性や進路先状況を考えると、グループホーム等で生活していく力を育てる環境が必要である。 【改善策】宿泊支援棟の増設を要望したい。

【中・長期目標】小規模校における合理的な学校運営と奥能登の特色を生かした教育活動を工夫する

重点目標	具体的取り組み	実現状況の達成度判断基準	評価(集計)結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
⑤ 少人数を生かしたきめ細やかな指導と全校のつながりを生かした活動の工夫	① ボランティア団体の協力の下で夏祭り「すずの集い」を開催する。	ボランティア団体の協力が A:十分に得られた B:だいたい得られた C:あまり得られなかった D:全く得られなかった	評価 A	【成果】すずの集いばかりでなく、運動会や学校公開にもボランティアの協力を得ることができた。 【課題】少人数を生かした全校的つながりを感じる活動をさらに工夫する必要がある。
⑥ 小規模校における校務分掌のあり方の工夫	① 緊急時のマニュアル及びシステムを確立する。	緊急災害時の対応に備えるマニュアルは A:メール、携帯電話、電話 B:携帯電話、電話 C:電話 D:なしのメディアで作成できた	評価 B	【成果】携帯電話と電話の緊急連絡網は作成できた。 【課題】災害時の災害ダイヤル電話の利用マニュアルを作成する必要がある。 【改善策】常時身につけている「身分証明書」を災害時にも使えるようなHELPカードとして改善する。
⑦ 校内情報化計画書に基づいた研修と学習指導の実際	① 情報機器を使った授業における指導力の向上を図るとともにその支援のための組織作りを行う。	研修会に参加した教員は A:8割以上 B:7割以上8割未満 C:6割以上7割未満 D:6割未満	評価 C	【成果】教材作りと校内LANに関する研修会を開くことができた。特に高等部では「情報」の授業があり、ワープロや表計算、デジタルカメラの扱いと画像の取り込み、メールのやりとりなど一連の情報活用能力が育っている。 【課題】コンピューターを扱える教員はほとんどなので、教員のニーズにあった高度な研修内容を用意することが課題である。児童生徒の重度化・多様化への対応が課題である。 【改善策】教員各自の得意としている分野についてお互いに学びあう研修会を夏期休業中に開催する。
	② 各教科、総合的な学習の時間、道徳教育などの年間指導計画に基づき、児童生徒の情報活用能力を育成する。	アンケートで生徒の情報活用能力が高まったとする教員は A:8割以上 B:7割以上8割未満 C:6割以上7割未満 D:6割未満	評価 B	





